



ご あ い さ つ

熊本県中学校体育研究会会長 中島 仙一郎

「平成」から「令和」へ新時代が幕を明けました。激動の昭和に続く平成を振り返り、引き継ぐものと、改めるものを峻別して力強く次代へ歩み出したい所存です。

本年度の熊本県中学校体育研究会の各取組は、「令和」最初の年となり、私たちの記憶に刻まれる令和元年度となりました。また、県内の保健体育科教師の総力で大きな成果を残し、無事に終了できましたことに感謝いたします。

さて、新学習指導要領では、指導内容を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で整理されました。また、これらの指導内容を確実に身に付けるための授業改善の視点として「主体的・対話的で深い学びの実現」についても示されています。

本年度研究発表を担当していただいた阿蘇郡市中学校体育研究会では、「学び合いの中で知識を深め、技能を高める学習をめざして」という研究テーマで阿蘇の生徒たちの実態を十分理解した授業が公開され、知識「わかる」と技能「できる」をつなぐ学習指導の工夫に焦点化された授業が行われました。また、実態に応じた効果的な授業の展開から、より一層の学びの深まりや動きの高まりを重視され、生徒相互の豊かな関わり合いのある、充実した研究発表大会となり、県内の保健体育教師に多くの示唆を与えていただきました。

さらに、中尾有沙氏の講演では、これまでの人生経験から、学びの基盤となった幼少期からやってきた陸上競技との出会いからこれまでの生き方、車いす陸上を始めたきっかけ、競技の魅力を語っていただき、新学習指導要領が求める保健体育科としての見方・考え方をご教示いただきました。

この研究発表大会の目的として、県内の保健体育科教師が新学習指導要領への理解、体育学習や保健学習に関する授業力の向上、教育課程編成等体育科教育の充実に向けて話し合う機会等があり、私たち保健体育科教師が、この深い学びを体感し、実践していかなければならないと感じています。

体育・保健体育科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて新しい学習指導要領が求める資質・能力の三つの柱とこれらの指導内容を確実に身に付けるための授業改善について深く考えることができ、生徒目線での「何ができるようになるか」ということと教師目線の「何を身に付けさせたいのか」という両面の視点から授業を創造していくことが大切であることを再認識することができました。

狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムによる人間中心の社会を指す society5.0 という近未来の社会。私たち保健体育科教師は、この時代が求める教育や学びを今求め、探り、この時代を生き抜く子供たちを育てていかなければならないのだと感じます。そのために学習する生徒の視点に立ち、「何ができるようになるのか」という観点から、育成を目指す資質・能力をもっと伸ばしていく必要があることを感じることができました。まさしく、学びの質の改善と評価の充実を一体的に深めることにつながるものと思います。

今後の中学校体育研究会は、令和3年度から全面実施となる新学習指導要領の円滑な移行及び確実な理解に基づく体育・保健体育科授業の効果的な指導法等をめざし、県内の保健体育科教師が総力を挙げて取り組めるよう尽力して参ります。そして、保健体育科教師の重要な責務である、各勤務校での生徒、教職員、保護者、地域からの信頼が基盤になるよう努力を続けていく所存です。

結に、本誌への貴重な寄稿をお引き受けいただきました方々に厚くお礼を申し上げますと共に、本研究会並びに保健体育教師への多大なるご指導とご支援を頂いております熊本県教育庁教育指導局体育保健課をはじめ、温かいご支援を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます。

会員の先生方の益々のご活躍と本研究会の充実・発展を祈念しましてあいさついたします。